

主 題：神はあなたのことを怒っておられる

聖書箇所：ローマ人への手紙 1章18節

今日は余り付けないタイトルを付けました。「神はあなたのことを怒っておられる」と。ある人たちはこのことばを聞いて驚かれるかもしれません。というのは、多くの方は「神は愛だ」と、そのように思っているからです。確かに、聖書の教える神は「愛の神」です。しかし同時に、「さばきの神」でもあられるということです。しかも、このみことばを通して神はあなたや私に対してさばきを警告しておられます。敢えてこんなタイトルにしたのは、あなたに「神はあなたのことを怒っておられる」ということを是非知っていただきたいからです。同時に、あなたには神との関係を改善する方法があるということも知っていただきたいからです。聖書のみことばは、なぜ、神があなたのことを怒っておられるのか？そのことを明確に教えています。私があるあなたをどう思うか、そんなことを言っているではありません。神があなたのことをどのように見ておられるのか？どう怒っておられるのか？そのことをこの聖書は明らかにするのです。ごいっしょにその聖書のみことばを見ていきたいと思えます。

☆なぜ、神はあなたのことを怒っておられるのか？

今日のテキストは「ローマ人への手紙1章18節」です。そこにはこのように記されています。「というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。」。神がどうしてあなたのことを怒っておられるのか？それはあなた自身が神の怒りを引き起こしているからだ、そのように聖書は私たちに教えるのです。恐ろしい現実、あなたは神の怒りを招く者として歩み続けているということ、そして、あなたの罪に対しては神は必ずそれにふさわしいさばきを下されるということです。さて、ここまで話して来ましたが、「なぜ、神はあなたのことを怒っておられるのか？」その原因を見ていきましょう。それがこの18節に記されています。

A. 神の怒りの原因

1. 真理を阻んでいるから

人々は「不義をもって真理をはばんでいる」とあります。「真理をはばんでいること」、それが神があなたに対して怒りをもっておられる原因だと言うのです。どういう意味でしょう？

1) 真理とは：「偽りのない真実、事実」という意味です。「疑うことのない真実、疑うことのない事実」です。あなたはそれに背を向けているということです。私たちは自分や家族が口に入れる物に関しては慎重に選んで購入します。最近よく言われる遺伝子を組み換えた作物のこと、マスコミを通して私たちはいろんなことを聞きますが、多くの方はそのことが表示されていると敬遠しませんか？なぜなら、健康に悪影響を与える可能性が高いと言われていたからです。まだ100%証明されたわけではありませんが、アメリカでは遺伝子組み換え食品の出現とともに、ガンや白血病、アレルギー、自閉症などの慢性疾患が急増しているとのことです。そのようなことを聞くと私たちはすぐにそれらの物は避けなければいけないとして、購入するときに調べるはずですが。

また、私たちはこの食材がどこから来たのか、その輸入国を調べます。この国だから「安全だ」、「そうでない」とか。また賞味期限を気にする人もいます。食べて大丈夫だろうか？と。ですから、このようなことに関しては私たちは結構注意を払うのです。恐らく、今言った以上に皆さんは注意を払っておられるでしょう。でも、もっと大切なことに関しては多くの方は無関心を貫いています。関心を払おうとしません。そんなことはどうでもいいと思ってしまっています。

例えば、自分自身のことについてどうですか？私はどのようにしてこの世に生まれ、どのように存在するようになったのか？私たちは本当に猿から進化して来たのか？など。ほとんどの人は「そんなことは難しいからどうでもいい…」と真剣に考えようとしません。なぜ、私たちが猿から進化して来たのでしょうか？有り得ないことです。「でも、そのように学校で習ったから、テレビでそう言っているから」と私たちは全く疑うこともしません。

例えば、私たちの死後についてはどうですか？確実に死が近づいています。でも、私たちは死んでからのことを真剣に考えているのでしょうか？「考えても考えても答えがないから、じゃー考えないようにしよう」と、でも、それは解決にはなりません。そこまで真剣に考えない。また、自分の永遠についてはどうでしょう？多くの人々は天国があると信じています。でも、自分が果してそこに行けるかどうかまでは真剣に考えない。そして、一番大切な神についてはどうですか？私たちの周りには神と名の付くものが山程あります。考えたことがありますか？それが本当の神なのかどうかを…。私たちはいろんなものに手を合わせています。いろんな物に願い事をします。でも、いったいだれに私は祈っているのか、だれに私は願い事をささげているのか、考えたことがありますか？もっと言えば、なぜ考えないの

しょう？私たちはこのような真理と言われることに関して関心を払っていません。

イエス・キリストが裁判官ピラトによってさばきを受けたとき、イエス・キリストはご自分がなぜこの世に来たのかそのことをピラトに語りました。ヨハネ 18 : 37、38 「:37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりです。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。…」、イエス・キリストがこの世に来られた目的は私たち人間が知らなければいけない真理を明らかにするためだと。だから、イエスは私たち人間は生まれながらに天国に向かっているのではなく地獄に向かっていることを明らかにしました。イエスは神とはだれなのか、そのことを明らかにさせたのです。こうして、私たちに知らなければならない真理を明らかにされた。それでも人々はその真理に耳を傾けようとしないし、ましてやその真理を受け入れようとしなかったのです。イエスがこのようにピラトに言われたときにピラトはこんな質問をします。「:38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」と。良い質問かのように思うかもしれませんが、でも悲しいことに、彼は真理を追究することもなかったし、まして彼は真理を信じることもなかったのです。非常に悲しいやりとりがここに記されています。

しかし、悲しい選択をしているのはこのピラトだけではありません。多くの人々が今も同じようなことをやっているのです。口に入れる物に対して、それ以外のものでも非常に神経質に「大丈夫か？」と確認しながら、もっと大切なことに関しては注意を払わないし、関心も持たないのです。そういう人が今日もこの中におられるかもしれません。

聖書は私たちに神がどのようなお方なのかを教えてください。

◎神とは？

・**真実なお方** : モーセはこのように言っています。申命記 32 : 4 「主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。」と。この点から見ても神は私たち人間とは全く違う存在だということを聖書は教えます。真実の神、この方には偽りが全くない、嘘がない、この方は真実しか語ることができないと。「正しい方、直ぐな方」、すべてにおいて正しい方、それが神だということです。全く私たちが聞いたことがない真理が聖書の中に記されています。なぜなら、私たちが手を合わせて来た対象は、かつての偉人であったり、人間がその手で作り出した物や動物だからです。聖書はそれが「神でない」ということを明確にし「これが神なのだ」ということを教えてくれます。

・**創造主なるお方** : 神はすべてのものをお造りになった創造主なるお方です。66巻に亘るこの分厚い聖書の最初の節は創世記 1 : 1 「初めに、神が天と地を創造した。」「これが神だ」ということを最初に教えているのです。これ以外のものは神ではないのです。神という方はすべてのものをお造りになった方です。預言者イザヤはこのように言っています。イザヤ 40 : 26 「目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方は、その万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つももれるものはない。」と。夜になって満天の星を見上げる時に、あなたは気付くでしょう、いや、それを見なくてもあなたは知っているでしょう、これらが偶然にできたものではないということ。それらをお造りになった方がおられるのです。イザヤが言う通り「目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。」です。

また、こう言います。イザヤ 45 : 12 「このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。わたしはわたしの手で天を引き延べ、その万象に命じた。」と、聖書の神はこうして明確に「神であるわたしはこの地を造りそして人間を創造した。これが神なのだ。」ということをお教えます。続いて、45 : 18 「天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを荒漠としたものに創造せず、人の住みかにこれを形造った方、まことに、この【主】がこう仰せられる。「わたしが【主】である。ほかにはいない。」、こうして聖書は神がどのようなお方かを明らかにしています。すべてをお造りになった嘘偽りのないすべてにおいて正しい聖いお方、それが神だと言います。

でも、私たちはこういう真理に関して関心を払いません。多くの人たちはそれを聞いても「それがどうした？」と言います。だから、あなたに対して神は怒っているということです。あなたは真理に対して全く背を向け続けているのです。この最も大切な真理に対して私たち人間の態度、選択は「阻む」ことだったのです。

2) **はばんでいる** : 「真理をはばんでいる」とあります。「はばむ」とは「何かを制止したり妨害することによって何かをすることからだれかを妨げること」です。つまり、人々は真理を聞いても自分たちのやりたいことをするために、その真理を自分自身で掴み取ろうとしないのです。それが「何であるか？」を悟ろうとしないのです。私たちは神がいることを知っているのです。永遠があることも知っています。なぜなら、神は人間を特別にそのように造ったからです。動物にはそのような思いはありません。神は動物と人間とを全く違うものとして造ったのです。でも、人間は聖書の教える神を求めています。

せん。どちらかと言うと、この神は自分たちにとって都合が悪いのです。だから、自分の好きなように生きることによって、その真理に近づかないように、その真理を悟らないようにと正しくない道を選択するようになったのです。

イエスが言われた通りです。ヨハネ3：19－20「そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。：20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」、悪いことをする者は光を憎む、悪いことをする者は神を憎む、「その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」と、「放っておいてくれ、私は自分の思い通りに生きていきたいから」と言うのです。神が私たちを遠ざけるのではありません。私たちが神を遠ざけているのです。

人間の問題とは何でしょう？本質的に人間は自分のやりたいように、生きたいように生きていきたいのです。だれにも邪魔されたくないのです。自分の好きなように生きて自分が楽しいと思えることを行っていきたいのです。それゆえに、人々は神に対して心を開こうとしません。なぜなら、神に心を開いてしまったら、今やっていることを放棄しなければいけないからです。だから、継続して人は創造主なる神に対して、また、神のおことばである聖書に近づこうとしないのです。

確かに、私たちはいろんな物に手を合わせていますが、よく考えてみるとみな自分に都合の良い存在だからです。パウロという信仰者は私たちの問題をこのように明確に教えています。「あなたは不義をもって真理を阻んでいる。あなたは真理よりも不義を選択している。」と、「不義」についてはこの後見ますが、あなたは神を選んでいない、選ぶとしてしない、却って、あなたは自分のやりたいように生きている。だから、神はあなたに対して怒りをもっておられると言うのです。

2. 不義を選択しているから

1) 不義とは：「真理」ではなく「不義」を選んでいると言います。「不義」とは簡単に言うなら「人として踏み行う正しい道から外れていること」です。「正しくないこと」です。実は、このことばは、ルカの福音書13章の中では「不正を行う」と書かれています。ルカ13：27「だが、主人はこう言うでしょう。『私はあなたがたがどこの者だか知りません。不正を行う者たち。みな出て行きなさい。』」と。

この「不義」に関しての説明をパウロは加えていきますが、少なくとも、私たちが掴んでおきたいことは、先程から話しているように、人間というのは、神の真理を心から受け入れてそれに従って行こうとしないで、その真理に背を向けて、そして、自分のやりたいことを優先してそのように歩んでいるということです。神よりもあなたは自分を優先している。神の前に喜ばれることよりも自分を喜ばせることを優先して歩み続けている。だから、神はあなたに対して怒っているのです。「あなたは不正を行っている、あなたの歩みは正しくない。」とみことばはそのように言います。

多くの人たちはそのように聞くと反発を覚えます。みな、「私は正しく生きている」と思っているからです。教会に来ると多くの皆さんが経験されたと思います。私もそうでしたが、一番抵抗があったのは「罪人」と呼ばれることです。なぜなら、「罪人」ということばは自分には当てはまらないからです。私以外の人たちのことだと思いませんか？なぜなら、ほとんどの者はそんなに酷いことをして来ていません。人が言う悪いことを自分から進んで行って来たのではありません。そうすると「罪人です」と言われたら「自分はそれに該当しません」とそのように思いませんか？私もその時に私にそのように告げた人に対して怒りを覚えたのですが、後で分かったことは、この人は神の代弁をしていたということです。この人が私を「罪人」呼んでいるのではなく、神がそのように呼んでいるのだということに気付いたのです。

だから、こういうことです。私たちが罪人と呼ばれると怒りを覚えるのは、私たちには罪人かどうかを判断する規準があるからです。その規準に沿えば私たちは罪人ではないのです。違いますか？私たちの規準というのは実際に有罪判決を受けた人と比較しませんか？「こんな酷いことをした人たち、それに比べるなら私はずっとましだ。こんな酷いことをした人たち、私はそんなことをしていない。」と、この人たちと比べて自分のはるかにましな人間だと思えますね。だから、同罪にされたら私たちは憤りを覚えるのです、「なんで私が…」と。

でも、神があなたを「罪人だ」と呼んだときにその規準は何か？それは私たちの持っている規準ではありません。神ご自身の規準なのです。その規準は「天の神が完全であるように完全でありなさい」です（マタイ5：48「だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」）。つまり、神の規準というのは、有罪判決を受けた人と私たちを比較するような規準ではなくて、神ご自身の規準です。それをもって測るのです。神はすべてにおいて完全、すべてにおいて正しい方、すべてにおいて真実な方、偽りのない方、だから、神には汚れたものが何一つない。その神の規準であなたや私を測ったときに、いったいだれが正しいと言えるのでしょうか？ということです。だれが神の前に責められるところがないと言い切れるかです。「完全であれ」とあなたに命じたのにあなたはそのように生きていない。だか

ら、神はあなたや私に対して「あなたは罪人だ」と言われたのです。神があなたに要求されている規準からあなたは逸脱しているのです。その規準に達していないのです。確かに、私たち人間の間ではいい人かもしれない。でも、神の目から見た時にあなたもその人もみんな神の規準から外れてしまっている、そのような存在だと言うのです。ゆえに、神はそのすべての人に対して怒りを持っておられるのです。

◎不義についてのより詳しい説明

パウロはこの「不義」に関してより詳細な説明を加えていることに皆さんもお気づきになると思います。「不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、」と書かれています。「不敬虔」と「不正」、この二つのことばをもって「不義」ということばの説明をするのです。神の道から外れてしまっている、神に背を向けて歩んでいる。あなたは実はこのような不義を行っていると言うのです。

・**不敬虔**：これは「神を信じないこと、不信心」です。神に対して尊敬の念を持たないのです。ユダ1：15「すべての者にさばきを行い、不敬虔な者たちの、神を恐れずに犯した行為のいっさいと、また神を恐れない罪人どもが主に言い逆らった無礼のいっさいとについて、彼らを罪に定めるためである。」、この「不敬虔な者たち」は、神への恐れがない人たちだったのです。ローマ人への手紙3章に「人間の不敬虔さ」が記されています。ローマ3：11には「悟りのある人はいない。神を求める人はいない。」、12節「…善を行う人はいない。ひとりもない。」、13節「…彼らはその舌で欺く。」、14節「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」と。パウロがみことばを引用して教えることは、人間というものは、(1)神を求めない、創造主なる真の神を求めようとしない。(2)神の前に正しいことを行おうとしないこと、自分のやりたいことをやっつけていこうとする。(3)嘘をつくことも人の悪口を言うこともかまわない。それが正しくないとは思っていないから平気で行います。(4)争い事があることです。そして、その原因をパウロは教えるのです。18節「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」と。私たちは神に対して恐れなど全然持っていないのです。もし、神に対する恐れを持っていたなら、今から説明するこのような罪を私たちは犯すことがないからです。

偶像崇拜：私たちが手を合わせる存在、願い事をする存在というのは、自分に利益をもたらしてくれる存在ではないですか？その存在が真の神であるかどうかなどはどうでもいいのです。「何をくれるのですか？私の欲しいものをくれるのですか？だれがくれるのですか？」と、「くれる」という所に行って手を合わそうとするのです。例えば、受験生を抱える親であれば一般的には受験のために合格祈願をします。この場所は今まで何十人、何百人の人が来たけれどもだれも合格しなかった。もし、そうところがはっきりしていたらだれもその所には行きません。こっちに行ったら合格する人がたくさんいたと聞けばみなそっちに行きます。結局、何をくれるかです。これまでどれだけ多くの人々に幸運をもたらしたか、多くの願い事を叶えてきたのか、そこに関心があるのです。

ですから、自分の願いを叶えてくれる確率的に高い所を自ら選んでそこに詣ろうとするのです。そのような人たちはこの方が真の神かどうかという思いなど微塵たりとも持っていません。だから、自分が手を合わせている存在、自分が願い事をささげている存在、それが神であるかどうかを考えないで、ただ、そういう行為を繰り返しているのです。もし、神に対する恐れがあるなら、そういう行為がどれほど神の怒りを買うことなのかとそのことを考えている人であるならそんなことをしようとはしません。神への恐れがないから自分のやりたいことをやっているのです。そして、私たちが手を合わせ祈りをささげている存在が、創造主なる神でないにも関わらずそれを平気で行い続けているのです。みことばが言います。あなたには「神に対する恐れがない。」と。

欲望に沿った生き方：私たちは自分の好き勝手に生きても別にかまわないと思っています。人生の中心は自分です。「自分が楽しければそれでいい、自分がしたいことをしてどこが悪いのだ…」と言います。あなたの創造主なる神が命じられた幸せをもたらす人生ではなく、神が心を痛められる生き方、神がお怒りになるような罪の人生を過ごしてどうして神の祝福を期待できますか？私たちはすべてをお造りなりすべてを司っておられる神に対して恐れを抱かないゆえに、このような生き方をただ認めるだけでなく、このような生き方を自ら進んで行っているのです。

ですから、私たちの生き方そのものが明らかにすることは、神に対する恐れを全く持っていないことです。「何をしてもかまわない、自分さえ良ければ。何をしても大丈夫、私がそれを望むから。」と。私たちが聞かなければいけないのは、その歩みに対して精算の日が来るということです。そのことが最後に記されています。まず、「不敬虔」ということで、人間の不義の罪深さとを明らかにしました。

・**不正**：これは「正しくないこと、悪いこと」です。ある聖書学者は「不敬虔というのは神に反することである。不正というのは人に反することである。」と言います。パウロが言いたいことは、私たちは神に対しても人に対しても何をしてもかまわない、人に嘘をつこうと人に対して悪い思いを抱こうと、神が言われることに背を向けようとかまわない、私たちはこのような歩みを行い続けている、こういう歩みをあなたは歩んでいるのだということです。だからパウロはそれをもって「あなたはさばかれ

るのだ。あなたは神の怒りを受けるのだ。」と言うのです。コロサイ 3 : 25にはこのように記されています。「不正を行う者は、自分が行った不正の報いを受けます。それには不公平な扱いはありません。」と。あなたがしたことはあなたが責任を取るのです。あなたが行ったことはあなたに帰って来るのです。あなたは何をしても「大丈夫！」と思うかもしれませんが、聖書は言います。「大丈夫ではない！」と。あなたの人生の精算をする時があるのです。

この18節のみことばが最後に教えてくれること、まず今見て来たのは、どうしてあなたが神の怒りを受けているのか、なぜ神があなたに対して怒っておられるのかその原因です。パウロは、あなたは真理ではなくて不義を選択している。真理を求めて生きるのではなく自分の不義の歩みの中でそれを自ら選択し、そこにあって満足を得ている。「私はこのように生きていく、そんな真理などどうでもいい」と、そのような歩みに問題があるということを行った上で「神の怒りが天から啓示されている」と言います。

B. 罪人へのさばき : その確実性

1. 例外のないさばき : 「あらゆる」

「神の怒り」が書かれています、その前に「人々のあらゆる不敬虔と不正に対して…」と「あらゆる」ということばが使われています。つまり、神は「すべての罪をおさばきになる」ということ、神が見落とされる罪はどこにもないということです。あなたや私の行ったすべての罪に対して神はそれにふさわしい報いをお与えになるということです。

2. さばきの現実 : 「神の怒りが天から啓示されているからです」

そして、このさばきは確実に起こるということをこの後半で明らかにするのです。「神の怒りが天から啓示されている。」と。神の怒りはすでに天、つまり、神のおられる所から明らかにされていると言うのです。私たちは教会に来なくても聖書の学びを受けなくても、自分の罪に対するさばきがあるということはどこかで知っています。そのような思いを神は私たち人間のうちに与えてくれているのです。不思議でしょう？何か良くないことをした時にそれが間違っているという思いを持ちます。だれかから教えられなくても聞いていなくても、間違ったことをした時には、私たちの心のうちから「それは正しくない」という思いが出て来ます。私たちはそのように造られているからです。ある規準があるのです。その規準に触れたときに「それは正しくない」と示すのです。嘘をついたときとか、何か悪いことをしたときは私たちの心の中から喜びが無くなってしまいます。

同時に、「天から啓示されている」と言って、そうして神のさばきがあるということを私たち自身が知っているだけでなく、これまでの歴史がそのことを明らかにしていると言うのです。確かに、これまでの歴史を見た時に神のさばきが下されました。

◎ノアの洪水 = 創世記 6-8章

ノアの洪水があったとき、その時の世の中の様子を聖書は教えています。創世記 6 : 5-7 a 「:5【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。:7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。」」、その当時の人々は真理を阻んで不義を選択していたのです。真理に従うどころか自分たちの思い通りに生きていたのです。そして、その人たちに対して神はさばきを警告されました。そして、さばきは下ったのです。ペテロもⅡペテロ 2 : 5でこのように言っています。「また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。」と。

「不敬虔な世界に洪水が起こされました」、神の審判が下ったということです。なぜなら、彼らは不敬虔だったからです。神を信じることもしないし、神を敬うこともしなかったのです。

◎ソドムとゴモラの破滅 = 創世記 18、19章

ソドムとゴモラも同じでした。続いてⅡペテロ 2 : 6に「また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。」と書かれています。なぜ、神はそのようなさばきを下されたのか？これから生まれて来る人々に神に背を向けて生きること、神を信じないで神に逆らい続けることがいかに恐ろしく愚かなことであるかを示すために、神はこのようなさばきを彼らに下されたと、そのように聖書は私たちに教えてくれています。

結論

皆さん、聖書の神は確かに罪を憎んでおられるお方です。どんなに小さな罪でもその罪に対してそれにふさわしいさばきを下さる方です。それが聖書の教えている真唯一の神なのです。その方があなたを造ったのです。そして、その方があなたに警告するのです。なぜなら、あなたはまだ不義の中を生きているからです。この方に背を向けてこの方を受け入れることもなく逆らい続けているからです。この警告が神によって発せられ、この警告のメッセージを今、神はあなたに対して与えておられるのです。

是非覚えてください。神はこの警告をあなたにずっと発し続けておられるのです。それが神だということです。罪を徹底的に憎まれる方、すべてにおいて聖く正しい方、これが神だということです。

同時に、最初に見たように、この方はあなたを愛してくださっています。だれ一人として、この神に愛される資格はありません。これまで私たちはずっと神に逆らい続けて来たのです。神が喜ばれることではなく喜ばれないことを継続して行って来たのです。でも感謝なことに、神はあなたを愛してくださっていることを証明してくださった。イエス・キリストの十字架です！イエスはあなたを造った神でありながら、この世に人として来てくださってあなたのすべての罪を負ってくださり、あなたが受けるべきあなたの罪の刑罰を代わりに受けてくださった。「人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」（ヨハネ 15 : 13）、一番大きな愛は自分のいのちをだれかのために犠牲にすることだと言います。あなたを造った神はご自分のいのちを喜んであなたのために捨ててくださった。そのことを通して、あなたを愛しているということを明らかにしてくださったのです。

思い出してください。だれ一人として、この神の愛にふさわしい人間は存在しないのです。あなたはそのことをよく知っています。あなたのどこを見てもこの神に愛される資格はありません。さばかれる資格はあります。さばかれてしかるべきなのです。永遠の地獄こそがふさわしい場所なのです。でも、神はそのことをすべて知った上でこの救いをあなたのために備えてくださったのです。

あのノアの箱舟が造られたとき、神は人々を滅ぼすと言われました。百二十年で滅ぼすと。そして、ノアに「箱舟を造れ」と言われました。彼が実際に何年かかって箱舟を造ったのかは分かりません。しかし、大変なものを造り上げていくわけです。その百二十年間、ノアは人々に何を語ったのか？人々に罪を悔い改めて神の赦しをいただくように語り続けたのです。箱舟が完成しました。今も実際に実物大の箱舟がケンタッキー州にあります。そこに行ってみると、ある一画に非常に印象的な所があります。それは「箱舟への入り口」です。大変大きなドアです。私たちの考えるような小さなものではありません。そこに十字架があります。その箱舟のドアはすばらしいメッセージを私たちに教えてくれるのです。

ノアの時代も神のことばを聞いて自分の罪を悔い改めて神に救いを求めたなら、神はそのドアから入ることを許してくださった、さばきに遭わなかったのです。そのことが象徴されているのです。確かに、ノアの箱舟は過去のことです。でも、神は同じ警告を今のあなたや私にも与えています。感謝なことに、そこに救いも約束されたのです。その当時もそうであったように今も変わりありません。神はあなたを赦してくださるし、あなたを新しく造り変えてくださるのです。あなたの過去も現在も未来もすべての罪を赦してくださり、そして、神の子どもとしてあなたは生まれ変わることができるのです。そのためにあなたは真理に耳を傾けなければいけません。あなたの罪を神の前に悔い改めて、イエス・キリストによって完成された完全な救いを心から感謝して受け入れることです。別の言い方をすれば、あなたを造り、そして、あなたを救ってくださる真の神であるイエス・キリストに従って行く決心をすることです。その時に神はこの赦しをあなたに与えてくださるのです。感謝なことに、神の警告のメッセージには赦しのメッセージも加えられているのです。

ペテロが教えてくれます。Ⅱペテロ 3 : 9「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」、このみことばが教えるように、神はあなたが救いに与るように待ってくださっています。その機会をあなたに与えてくださっているのです。この救いを感謝をもっていただくことです。この方を心から信じることです。そして、神に逆らい続けて来た人生を止めることです。

神の警告、何千年にも渡って人類に語られ続けて来ました。というのは、人間はどの時代でも神に逆らい続けているからです。そして、今も同じメッセージがあなたに語られています。なぜ、あなたが神に怒られているのか、そのことを今日聞いてくださってお分かりになったはずです。同時に、神はあなたを赦してくださる。その救い主である神の前に、今日あなたが出て来て、この救いをいただいて生まれ変わることを心からあなたにお勧めします。今日が救いの日になることを心から期待します。